

南伊豆・ユネスコクラブ

カヌー用のスギ伐採

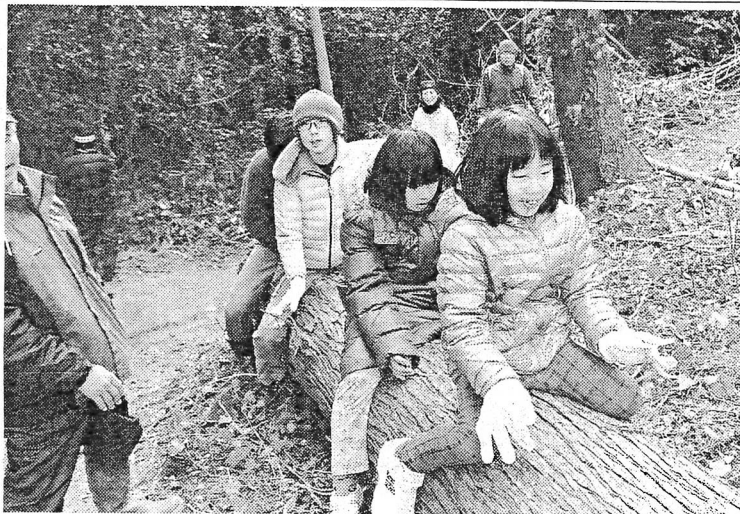
夏の自然体験学習へ向け

南伊豆町加納に活動拠点を置く伊豆ユネスコクラブ(小林恵智代表)は今年、山の木を切り出してカヌーにする自然体験学習を実施する。7月に同町大瀬

の海で行う。23日は活動拠点を南伊豆ゲレンデで、カヌー用の木の伐採式を開いた。

同クラブは昨年設立され、日本ユネスコ協会連盟に加盟した。伊豆で学ぶ、伊豆で遊ぶ」をテーマに、自然が育んだものを無駄なく使つて子どもたちにさまざまな体験をさせる。伐採式はカヌー体験のスタートとして実施。会員やその子どもたち25人ほどが参加した。南伊豆ゲレンデの事務局長を務める小林邦行さんは「これから木を切り倒します。私たちは40年も生きてきた大きな杉の木の命をいただくことになるのです」と命の大切さを説明。伊豆森林組合に

より高さ15メートルほどの木が倒された。周囲には杉の木の香りが漂い、会員からは「いい香り」といった声が上がった。今後、子どもたちが木をカヌーに加工。7月24日に海に浮かべることを考えている。



カヌー作りのために伐採した木にまたがる子どもたち。南伊豆町の南伊豆ゲレンデ